

関わりの中で、生徒は地域を愛し、未来へ羽ばたく。



「再編計画」では、今年度から令和9年度までの3年間の取り組みや実績、令和10年4月の入学者数などを基に、「統合」「分校化」といった今後の高校の在り方が検討されることとなっています。人口減少・少子化がさらに加速する中、定員割れが常態化している両校にとって、再編への切迫感が高まっています。

地元中学生の進路希望も多様化しており、入学者数を増加させることは容易なことではありません。ただ、町内で高校生活を送る今の生徒たちに私たちができることはあるはずです。通学中の生徒への声掛けや学校行事への参加など、生徒と関わりを持つことで、生徒たちはそれぞれに「地域」を感じ成長していきます。

これこそ、高校3年間という人生において重要で多感な時間を、地元高校を選択してくれた生徒たちに、私たち大人が「今」できることではないでしょうか。

中学生が見つめる未来、

保護者が願う想い。

中学生の声

窪川中 2年生
吉村 至雲 さん



進路先は
部活動と学校環境で決める!

中学卒業後の進路は、まだ決めていません。部活動が強い高校へ行きたいので、どうしても町外の高校になってくると思います。

小学生の時、私の学年は1人しかいませんでしたが、中学校でたくさんの友達できました。もし地元高校の部活動が強くて、生徒数も多く新しい友達がつくれるのなら進学を考えたかもしれません。

大正中 2年生
横山 優心 さん



不安はあるけど、
やりたいことに挑戦!

ソフトボールで上を目指したいので、県外の強豪校も含めて進路を考えています。厳しいレギュラー争いの中で、自分を試してみたい。大きな高校に行くことや親元を離れることには、少し不安はありますが、やりたいことに挑戦してみたい気持ちの方が強いです。それに今までとは違った人間関係の中で、高校生活を送ってみたい気持ちもあります。

十和中 3年生
久原 明 さん



母のような
看護師になるために!

幼い頃から看護師である母に憧れ、気付けば私も看護師を目指すようになっていました。中学卒業後は、5年一貫の看護科がある高知市内の高校への進学を考えています。

今、3年生は7名しかいませんが、生徒数が多い大きな高校への不安はありません。それに今までずっと「運動会」だったので、大人数で行う「体育祭」にも憧れます。

保護者の声

窪川中 1・3年生
保護者
森本 英和 さん



地元高校で完結できれば
それが一番!

子どもたちには高校卒業後の進路まで考えて、より選択肢が多い道を選んでほしいです。先月号の広報紙を見て、町内高校でも町外校と同等レベルで進学できていることを知りました。こういった情報をもっと周知していけば、地元高校も子どもたちの選択肢の1つになってくるはずです。町外高校への進学は何かと負担が大きいので、地元高校で完結できるのであればそれが一番です。

大正中 2年生
保護者
谷脇 祐二 さん



母校には存続してもらいたいが…。

私が四万十高校に通っていた頃は、今よりもっと生徒が多く、先輩や仲間と過ごしたたくさんの思い出があります。時代の流れとはいえ、母校が存続の危機にあるのはやはり寂しいです。

四万十高校には、小規模校ならではの良さがあるし、大きな高校に行けば視野も広がり成長できるのも事実です。大切なのは子どもの気持ちを優先してあげることですかね。

十和中 2年生
保護者
森田 充浩 さん



子どもの入学で地元高校の良さを実感!

この春、長男は四万十高校を卒業し県外の希望大学へ。長女は情報処理を学ぶため高知市内の高校へ進学しました。私も大正高校OBですが、普通科へ行くなら地元高校をお勧めします。小規模校ならではの手厚いサポートや「じゆうく。」の支援などもあり、得られるものが大きい。今は給食もあり、家から通えて親も安心。地元CATV放送で高校生活の様子が分かるのもいいですね。

窪川高校

花がもたらす高校生との交流!



窪川高校の玄関前では、センパフローレンス(1鉢80円)・球根ペゴニア(1鉢800円)を販売しています。生徒たちが育てた花を購入し、皆さんも生徒たちとの会話に花を咲かせましょう!

※販売は平日の学校開校時のみ



四万十高校

地元事業者とコラボした商品開発!



今年度は総合的な探究の授業で、町内事業者と連携して「ふるさと納税」の返礼品開発に挑戦しています。商品や体験メニューの開発を通して、地域活性化について学んでいきます。



お問い合わせ先 / 人材育成推進センター ☎22-3163